

# 日本民俗学会 第 69 回年会 京都

## 第 1 回 サークュラー

日本民俗学会第 69 回年会を下記の要領で開催いたします。本年は京都市北区の佛教大学紫野キャンパスが会場となります。年会全体のテーマは、「京都で考える民俗学のかたち」です。

一般研究発表につきましては、多様なテーマによるご発表を歓迎いたします。

充実した年會をめざしますので、皆様奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本民俗学会第 31 期会長 徳丸 亜木

**主催** 日本民俗学会

**共催** 京都民俗学会

**日程** 2017 年 10 月 14 日（土）・15 日（日）

**会場** 佛教大学紫野キャンパス（京都市北区紫野北花ノ坊町 96）

※ 秋の京都は観光客が多く、宿泊施設不足が予想されておりますので、本実行委員会から JTB にホテルの斡旋をお願いいたしました。どうぞできるだけ早めに、同封の申し込み用紙にて JTB に直接申し込んでください。近年、京都だけではなく、大阪方面でも宿泊施設が早く予約で埋まると思われるので、ご注意くださいようお願いいたします。

### 会場アクセス

・JR 京都駅から

市バス 205 系統循環（B3 のりば）、206 系統循環（A3 のりば）、  
101 系統金閣寺行（B2 のりば）

⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約 3 分

・京都市営地下鉄北大路駅から

市バス 1 系統西賀茂車庫行、北 1 系統玄塚行（青のりば E）、  
北 8 系統松ヶ崎駅行（青のりば F）

⇒佛教大学前にて下車

・JR、地下鉄二条駅から

市バス 6 系統玄塚行、46 系統上賀茂神社行

⇒佛教大学前にて下車

市バス 206 系統循環

⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約 3 分

・ 阪急大宮駅

市バス 6 系統玄塚行、46 系統上賀茂神社行

⇒佛教大学前にて下車

市バス 206 系統循環

⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約 3 分

・ 京阪出町柳駅

市バス 1 系統西賀茂車庫行

⇒佛教大学前にて下車

市バス 102 系統北大路バスターミナル行

⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約 3 分

会場への経路図等は第 3 回サーキュラーに掲載します。

佛教大学<<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/access/murasakino/>>のホームページも  
ご参照ください。

**年会事務局** 佛教大学歴史学部紫野キャンパス 八木透研究室 気付

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96

Tel 075-491-2141 (代表)

E-mail [minzokugaku69@gmail.com](mailto:minzokugaku69@gmail.com)

※連絡はなるべく E-mail でお願いします

**プログラム** 10月14日(土)

9:30 ~ 10:00 理事会

10:15 ~ 12:00 評議員会

12:00 ~ 受付開始

13:00 ~ 16:30 公開シンポジウム 「京都で考える民俗学のかたち」

16:40 ~ 17:50 研究奨励賞授賞式・会員総会

18:00 ~ 20:30 懇親会

10月15日(日)

9:00~ 受付開始

9:30 ~ 12:00 研究発表(午前)

12:00 ~ 13:00 昼食

13:00 ~ 16:30 研究発表(午後)

なお、本会は見学会を企画しておりません。

- ※ 開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムは 8 月下旬に最終決定し、第 3 回サーキュラーでお知らせいたします。

#### 参加申し込み

参加・発表を希望される方は、オンライン申し込みフォームよりお申し込みいただくか、同封の返信用葉書に切手を貼ってご投函ください。

オンライン申し込みフォームのアドレス

<<http://www.nenkai.fsjnet.jp>>

「日本民俗学会ホームページ」→「第 69 回日本民俗学会年会ホームページ」→「登録・申し込み」の順にお進みください。

はがきの場合の期限は 2016 年 6 月 20 日（火）必着とします。

オンラインの場合は 2016 年 6 月 20 日（火）24:00 までに送信ください。

参加・発表の申し込みは、オンラインか返信はがきかのどちらか一方でお願いいたします。なお、できるだけオンラインでの申し込みをお願いいたします。

- ※ 返信はがきを住所変更通知など、年会業務とは無関係な連絡には利用しないよう、お願い申し上げます。
- ※ お送りいただいた個人情報については、第 69 回年会にかかわる事務においてのみ利用し、別の用途に利用することはありません。

#### 参加費

年会参加費 5000 円（当日 5000 円）

懇親会参加費 6000 円（当日 7000 円）・学生 5000 円（当日 6000 円）

- ※ 年会参加費・懇親会費ともに納入期限は 8 月 18 日（金）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は大会当日に当日料金でお支払いください。
- ※ 一度納入いただいた参加費はいかなる理由があっても返却いたしません。あしからずご了承ください。
- ※ 参加登録をしていながら、参加がかなわなくなった場合、9 月 25 日（月）までに E-mail にて年会事務局に必ずご連絡ください。連絡がない方で万一、未納金等がある場合、年会終了後に請求し、お支払い頂きます。
- ※ 納入方法は、6 月下旬に参加申込者に送付する予定の第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

#### 研究発表形式

一般発表

- ・ 発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。
- ・ 一般発表を行う方は、オンライン、もしくは同封の返信はがきにてお申し込みください。
- ・ 発表内容は、日本民俗学会および関連する諸学会等において、未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りします。
- ・ LAN の設備はございません。
- ・ 発表の形式によっては、備え付けの PC で対応できない場合があります。
- ・ PC (Windows、Mac) の持ち込みも可能です。その場合は、アダプターもご持参ください。

#### グループ発表

- ・ 統一テーマのもとで 4 名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち一人をグループ発表の代表者としてください。
- ・ グループ発表の場合、代表者の方だけでなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」を行っていただきます。オンライン、もしくは同封の返信はがきにてお申し込みください。
- ・ グループ発表の時間枠は 120 分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
- ・ グループには適宜、司会を設定していただくことができます。司会自体の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
- ・ グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。  
※ 個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。

#### 発表資格について

- ・ 第 69 回年会における発表資格条件は、(1)名誉会員、(2)2017 年 5 月末日時点で 2017 年度の会費を納入済みの会員です。  
※ 新入会員については、2017 年 5 月 14 日開催の理事会で入会を承認されている必要があります。
- ・ 期限 (8 月 18 日) までに年会参加費の納入および発表要旨の提出がない場合は、自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

#### 書籍販売の申込み

会員および出版社の方が会場での書籍の販売を希望される場合、第 2 回サーキュラーに同封する「書籍販売登録票」(年会ホームページにも掲載します)にご記入の上、8 月 18 日 (金) までに事務局あてに郵送、もしくはメール添付ファイルでお送りください。

## 今後の予定

オンライン申し込み期限 6月20日(火) 24:00

返信はがき郵送期限 6月20日(火) 必着

第2回サーキュラー 7月初旬発送予定

内容：発表要領、発表要旨執筆依頼（発表予定者のみ）、参加費納入要項、その他年会参加に関する連絡事項、書籍販売申し込み要領、出張依頼状の同封（希望者のみ）

参加費等納入期限 8月18日(金) これ以降は当日料金になります。

発表要旨提出期限 8月18日(金)

書籍販売申し込み期限 8月18日(金) 書籍販売登録票提出

第3回サーキュラー 9月上旬発送予定

内容：各発表会場プログラム、会場案内、発表案内

## 公開シンポジウム

民俗学とは何か

—京都で考える民俗学のかたち—

### 趣旨

民俗学とは、17世紀のヴィーコ（Giambattista Vico, 1668–1744）に発し、18・19世紀の対啓蒙主義、対覇権主義の社会的文脈の中で、ヘルダー（Johann Gottfried von Herder, 1744–1803）、グリム兄弟（Jacob Ludwig Karl Grimm, 1785–1863, Wilhelm Karl Grimm, 1786–1859）によって強力に推進された文献学と、メーザー（Justus Möser, 1720–1794）による郷土社会研究が合流することで形成され、その後、世界各地に拡散し、それぞれの地において独自に発展したディシプリンで、覇権、普遍、中心、主流とされる社会的位相とは異なる次元で展開する人間の生を、前者と後者の関係性を含めて内在的に理解することにより、前者の基準によって形成された知識体系を相対化し、超克する知見を生み出す学問である。

この学問が、日本に導入され、主として柳田國男のリードのもとに体系化と組織化が開始されてからすでに100年以上の歳月が経過している。この間、さまざまなスタイルの民俗学研究が生み出され、今日に至っているが、その過程で、民俗学とは何か、何が民俗学なのかについての共通理解が曖昧となり、そのため、たとえば個別には優れた研究が多く生み出されていても、研究者間でそれぞれの研究の位置付けができず、学問全体としての力が発揮されないという事態も発生するようになっている。

本シンポジウムでは、こうした状況を乗り越えるべく、あらためて民俗学の多様な姿と確保すべき一貫した視点について検証し、現代における民俗学という学問の全体像—民俗学のかたち—を描き出す。

いまから19年前、今回のシンポジウム会場と同じ京都・佛教大学にて開催の日本民俗学会第50回年会シンポジウムで話題とされた「落日の中の日本民俗学」なるものは、本シンポジウムをもって、完全に過去のものとなり、民俗学は理論的かつ実践的に強力に体系化され、同時に学際的にも開かれたディシプリンとして再生することになる。（島

村恭則)

## 日 程

- ・開催日： 2017年10月14日(土) 13:00～16:30
- ・会 場： 佛教大学紫野キャンパス

## プログラム

- 司会・趣旨説明：橋本章(京都文化博物館)
- 基調報告：島村恭則(関西学院大学)「民俗学とは何か」
- 報告1：野口憲一(日本大学)「科学技術・生世界・民俗学」
- 報告2：村上紀夫(奈良大学)「歴史民俗学と現代民俗学」
- 報告3：真鍋昌賢(北九州市立大学)「文学・芸能・メディア研究と現代民俗学」
- コメント1：村上忠喜(京都市歴史資料館)「実践現場からの応答」
- コメント2：周星(愛知大学)「中国民俗学からの応答」

なお、報告・コメントの題目は、実行委員会から各報告者、コメンテーターに依頼中の仮題です。

## プレシンポジウム 山鉾屋台研究の意味論／政治論的地平 —京都で考える民俗学のかたち—

### 趣旨

昨年12月、33件の国指定民俗文化財が「山・鉾・屋台行事」として、ユネスコ無形文化遺産の代表一覧表へ記載されることが決定した。いずれも大規模な都市祭礼であり、推定十万人以上の人々が直接関与する。さらに国内には、この33件以外にも、推定1300件を超える山・鉾・屋台が登場する祭礼がある。それらの多くは、地域における結衆の表象、文化財としての保存の対象、地域産業の見本市であり、地域権力が投影される対象でもある。民俗学の古典的研究とも通じ、かつ現代的な研究意義も濃厚に有する山・鉾・屋台行事を素材に、意味論的地平と政治論的地平で分析し、民俗学が持つ有為性をどのように描き出せるか試みたい。

日時：2017年7月30日(日) 13:30～17:00

会場：佛教大学二条キャンパス(京都市中京区西ノ京東梅尾町7)

京都市営地下鉄東西線二条駅・JR山陰線二条駅下車すぐ

趣旨説明・進行：村上忠喜(京都市歴史資料館)・島村恭則(関西学院大学)

パネリスト：橋本章(京都文化博物館)／福岡裕爾(福岡市博物館)／

岡田浩樹(神戸大学)／菊池健策(東京文化財研究所)

コメンテーター：俵木悟

#### 氏名・所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしておりますとおり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、昨年度の第67回年会から、参加登録の際の記名、名札、『研究発表要旨』、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、『研究発表要旨』、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、  
山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO  
法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花  
子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、  
山田 花子（〇〇大学非常勤講師）など

#### <参考>

日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著であり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014年7月13日

第29期日本民俗学会理事会